

好調に推移したインドネシア株式市場と 2018 年の展望

割石 俊介

＜過去最高水準の株価＞

今年に入り、インドネシア証券取引所の中二階の廊下が崩落し 70 名以上が負傷するという事故があり、日本のニュースでも映像が紹介されました。驚きのニュースでしたが、インドネシア証券取引所は、本来はもっといいニュースで話題になるべき場所です。

2017 年は世界的に株式相場は堅調でしたが、インドネシアも実は日本を凌ぐ堅調ぶりでした。インドネシア総合株式指数は 2017 年に 19.9% 上昇、過去最高水準をクリアし 6,300 ポイント越えとなりました。この上昇率はタイ、マレーシア、シンガポール、中国、そして日本を上回っています。

＜相場の牽引車は何か＞

実は、外国人投資家は利益確定の動きも多く 2017 年通算では売り越しでしたので、それを補って余りある国内投資家の買いがあったということになります。国内投資家は経済の先行きに自信を持っており、IPO (株式新規上市) は 37 社にのぼりました。

セクター別に株価の上昇率を見ると、金融は 40.52%、基礎工業・化学が 28.06%、生活産業が 23.11% と大きく伸ばしています。

＜マクロ経済の動向＞

良好なインドネシア経済が好調な株式相場のベースとなっています。GDP 成長は 5% 超で持続し、インフレも抑えられ (2017 年 12 月時点で 3.6%)、外貨準備は 1,260 億 US ドルまで積み上がりルピア相場も安定しています。商品市場の回復も資源大国インドネシアには好材料となります。格付け機関フィッチによる格付けが BBB マイナスから BBB に改善され、これによりムーディーズ、S & P とあわせ世界三大格付け機関より投資適格のお墨付きを得たこととなります。財政赤字も対 GDP 比 2.57% で、上限値の 3% を下回る水準となりました。政府債務残高は対 GDP 比 28.5% に抑えられています。金融・財政含め総じてイ

ンドネシア経済のマクロの状況は良好で、巡航速度の成長軌道を進んでいると言えるでしょう。

＜2018 年の展望＞

インドネシア経済は 2018 年も堅調に成長すると見られています。政府は経済成長率を 5.4% と予測しています。ブルームバーグの調査でもエコノミストの予測の中間値は 5.3% となっています。インフレ率は更に落ち着き 3.5% 程度と見られています。

2018 年は 6 月に統一地方選挙 (首長・議会選挙) が予定されており、また、2019 年の大統領選挙を控え、政治の季節に入ります。ジョコ・ウィドド大統領の支持率は高く、調査会社サイフル・ムジャニが 9 月に実施した調査では 68% となっています。外国投資家としては政権の安定を求めたいところですが、政権をめぐる争いがインドネシアの将来の見通しに不安な影を落とすようなことになるのか、それとも政治基盤がより強固となりさらなる成長へ繋がることが期待されることとなるのか、今後の先行きが注目されます。